

eiseikai group

# REHABILITATION STAFF RECRUITMENT

リハビリテーション部

採用案内

永生会 理念

## 医療・介護を通じた 街づくり・人づくり・思い出づくり

リハビリテーション部 使命

患者さん・利用者さんにとって  
「住み慣れた場所で自分らしく暮らす」を実現する  
職員の多様な「成長・働きがい」を実現する  
各事業所の健全経営に寄与する

### 切れ目のないリハビリ連携

急性期・包括期(回復期)・生活期・終末期まで、グループ内の病院・施設が連携し、患者さん・利用者さんの生活を見据えた切れ目のないリハビリテーションを提供しています。

### 多彩に広がるキャリアパス

職域が幅広く、ゼネラリストもスペシャリストも目指せます。グループ内異動も柔軟に対応できるので、転職せずに多様な経験ができ、必ず輝ける場所が見つかります。

### 学び続けられる環境

新人はもちろん、各キャリアステージに合わせた指導や勉強会・研修会が定期的で開催されています。また、学会や外部研修会への参加も積極的にサポートしています。

永生会グループの施設 暮らしに寄り添うリハビリテーション	…	4
リハビリテーションマップ やりたいがきっと見つかる	…	6
教育システム 学びの姿勢をずっと応援	…	8
先輩後輩インタビュー	…	10

# 暮らしに寄り添う リハビリテーション

永生会グループの施設

## “街ごと支える”

### スケールが生む安心感

永生会グループの大きな特徴は、医療・介護・福祉を一体的に提供できるスケールメリットです。複数の病院、クリニック、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどが連携することで、患者さん・利用者さんの状態や生活環境に合わせた支援が可能となっています。またこの大きな組織力は、たんに施設数が多いということだけではありません。充実した教育体制や多職種連携の強さ、そして多様な症例に関われる機会が、成長できる環境を支えています。

## 病院から地域まで すべてがあなたの舞台

病院では、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟など多様な病棟でリハビリテーションを提供。クリニックでは外来・通所・訪問の3つのリハビリ機能を持ち、生活期のリハビリテーションも幅広く担っています。さらに、介護老人保健施設や複数の訪問看護ステーションでは、住み慣れた生活を守るための訪問リハビリを展開。それぞれの場所で、「その人らしい暮らし」を支えています。

## “地域包括ケア”を グループ内で実現

最大の強みは、医療から介護・在宅まで、地域包括ケアシステムに必要な機能をグループ内で完結できることです。急性期・包括期(回復期)の病院、生活期の老健・グループホーム、在宅を支える訪問看護・居宅支援、さらには地域包括支援センターの受託運営まで。入院から退院後の生活まで切れ目なく支えられる体制が、八王子の地に整っています。永生会の理念「医療・介護を通じた街づくり・人づくり・想い出づくり」は、この広大なネットワークがあってこそ実現できるものです。



**永生病院** 総病床数 … 500床  
回復期リハビリテーション病棟・一般病棟  
地域包括ケア病棟・医療療養病棟  
精神科病棟・介護医療院



**南多摩病院** 総病床数 … 170床  
一般病棟・地域包括ケア病棟



**永生クリニック**  
外来リハビリ・通所リハビリ・訪問リハビリ  
保険外事業



**みなみ野病院** 総病床数 … 205床  
回復期リハビリテーション病棟  
医療療養病棟・緩和ケア病等



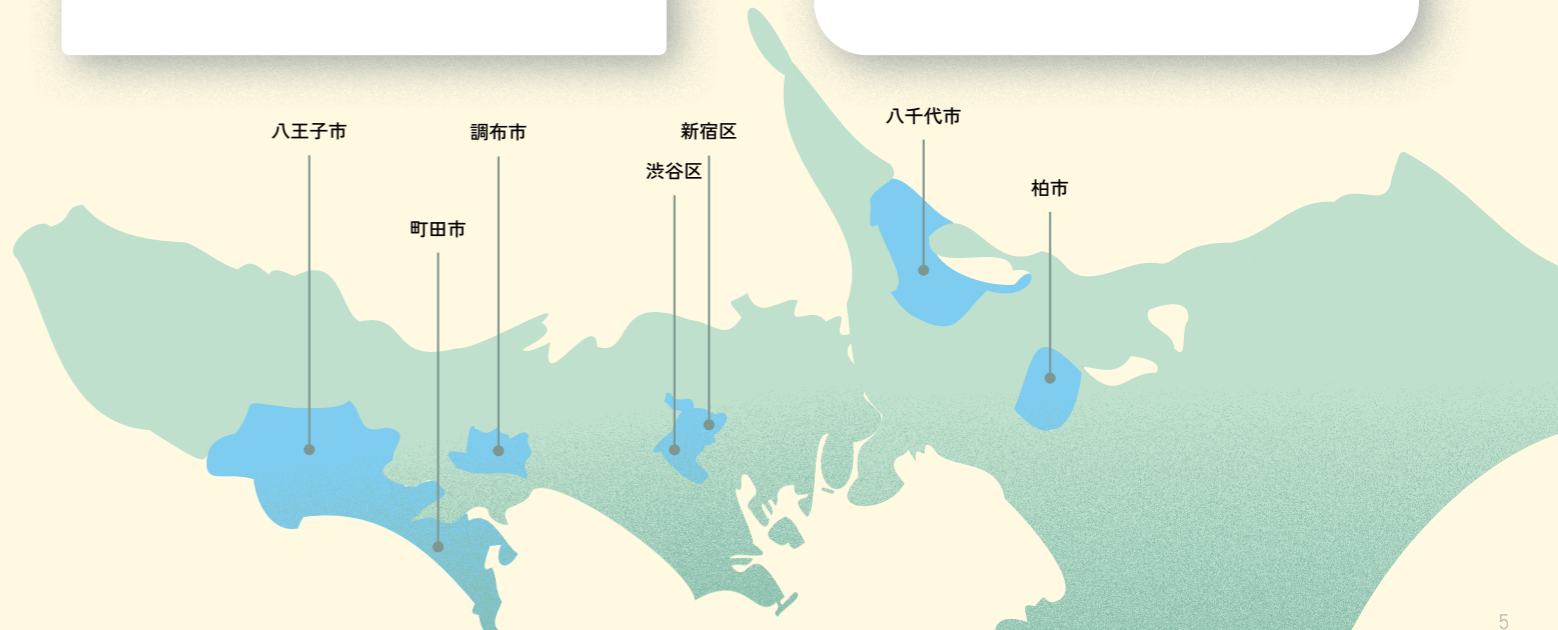
**新八千代病院** 総病床数 … 295床  
回復期リハビリテーション病棟  
地域包括ケア病棟・医療療養病棟

### 永生会グループは 幅広い機能で地域を支えています

- ・病院
- ・クリニック
- ・健診クリニック
- ・訪問診療
- ・訪問看護ステーション
- ・地域包括支援センター
- ・居宅介護支援事業所
- ・訪問介護
- ・介護老人保健施設
- ・介護医療院
- ・認知症グループホーム
- ・特別介護老人ホーム

### 八王子から広がる 医療と介護のチカラ

永生会グループは、1961年に誕生した医療法人を母体とし、東京都八王子市を中心に医療・介護のネットワークを築き続けてきた医療・介護グループです。現在では、病院・クリニックをはじめ、介護老人保健施設、認知症グループホーム、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所まで、実に30を超える多彩な事業所を展開しています。



# やりたいが きっと見つかる

## リハビリテーションマップ

### 多彩に広がる キャリアパス

永生会グループのリハビリテーションは、さまざまな分野で展開されています。急性期・包括期(回復期)医療を担う病院をはじめ、クリニック、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなど、患者さん・利用者さんの生活を支える多様な現場でリハビリテーションを提供しています。一つの施設だけでは経験できない、幅広い領域のリハビリテーションに触れることができます。

### 「どこで」より 「どう」働きたいか

私たちは、リハビリテーションの職域に限界を設けていません。例えば、認知症ケアに特化したい、高次脳機能障害者の支援を究めたい、あるいは地域住民向けの健康教室を企画したい。そんな個々のパッションを形にできるフィールドが、永生会グループの中には無数に散らばっています。

どうしてこんなに  
たくさんいるの？

「退院後、あの患者さんはどんな生活を送っているだろう」—そんなことを考えたことはありませんか。病院で回復を支えた患者さんが、そのまま老健や在宅でも永生会グループのリハビリスタッフと関わり続けることができます。人の暮らしを一貫して支えたいから、私たちはあらゆる領域に存在しています。



## 事業所機能一覧

事業所	病棟・サービス形態	急性期	包括期 (回復期)	生活期	終末期
南多摩病院	入院 一般病棟 地域包括ケア病棟	●	●		
	外来	●			
永生病院	入院 一般障害者病棟・整形外科病棟 回復期リハビリテーション病棟 地域包括ケア病棟 精神科病棟・医療療養病棟	●	●	●	
	入所 介護医療院				●
	みなみ野病院		●	●	●
	通所			●	
新八千代病院	入院 回復期リハビリテーション病棟 地域包括ケア病棟 医療療養病棟		●	●	
	外来			●	
	明生会 セントラル病院 本院 / 松漣	入院 一般障害者病棟 医療療養病棟		●	●
永生クリニック	入所 介護医療院				●
	外来 訪問 保険外事業【自費リハ】			●	
スマイル永生	通所			●	
介護老人 保健施設 イマジン 荒井記念ホーム	マイウェイ四谷 オネスティ南町田 イマジン 荒井記念ホーム			●	
	入所 通所 訪問			●	
	高生会 明日に架ける橋	入所		●	
	訪問診療 クリニックグリーングラス グリーングラス南大沢クリニック	訪問		●	
訪問看護 ステーション	めだか / とんぼ / いるか / 口笛 大和田訪問看護ステーション	訪問		●	●

### 地域支援（八王子市委託事業）

- みなみ野病院
- スマイル永生
- 介護老人保健施設 イマジン
- 訪問看護ステーション ひばり
- 訪問看護ステーション いるか

### 専門支援機能

- 地域リハビリテーション支援センター  
(生活支援コーディネーター・認知症地域支援専門員)
- 高次脳機能障害支援センター
- 研究開発センター  
リハビリテーションの質向上と地域連携を支える  
中核機能を担っています。

# 学びの姿勢をずっと応援

教育システム

入職後の流れ

4月

## グループ 入職時研修

永生会グループの理念や歴史、組織を学び、各事業所の役割や目的などを理解する研修です。新社会人向けの講義や各事業所の情報まで盛りだくさんです。

## 法人リハビリ部門 新入職研修

法人リハビリ部門の理念や基本方針を学びます。各リハビリ責任者の講話や、ワークショップなどを通して、リハビリスタッフとしての在り方を学びます。

## 事業所ごと 新人研修

所属する病院で、より現場に即した研修を行います。実技練習、機器操作などはもちろん、基本的なマナーや働き方など、社会人としての知識も学びます。

10月

## フォローアップ 研修

入職からの半年間を振り返り、全体研修の時に立てた目標に変わりがなかったかを確認します。不安や疑問を解消しつつ、同期と情報交換を行います。

3月

## グロウイング 研修

1年の振り返りをまとめて、2年目の目標を立てるための研修で、成長や変化を実感できる大切な機会です。先輩を迎えさらなる成長を期待しています！

半年経ったね！

2年目だ！

2年目以降

## クリニカルリーダー

### STEP 1 トレーニー

指導を受けながら日々の決まった仕事をこなせる



### STEP 2 アソシエイト

指導を受けずに一人でも日々の決まった仕事をこなせる



### STEP 3 シニアアソシエイト

先輩の指導などリーダーシップを発揮業務の企画発案ができる



### STEP 4 プロフェッショナル

企画発案などを各所へ普及できる人材の育成ができる



## バイザー制度

事業所の特性や業務内容に合わせたバイザー制度があり、困った時にはすぐに相談できる環境を整えています。



### 臨床バイザー

専門的な知識や技術を中心にサポート一緒に臨床に入って指導します

### 業務バイザー

臨床以外での日常業務をサポート事業所でのルール等も指導します



※事業所により異なる

勤務年数に関係なく学べる

## 学びがたくさん！ リハビリ勉強会

症例発表や注目のテーマなど、さまざまな勉強会・研究会が行われています。職種ごとや事業所ごとはもちろん、事業所合同で行われることも。誰でも参加できるような開かれた勉強会も多く、自己研鑽に積極的に活用できます。

### 毎月どこかで勉強会が 開かれています

- ・ST合同勉強会 - 病院在宅・ビフォーアフター
- ・OT症例報告会 - 心に残った1症例 -
- ・日本理学療法士協会認定PT症例検討会
- ・リハビリテーションに生かす睡眠勉強会
- ・呼吸でつながる仲間たち - 呼吸器リハビリ -
- ・インシデント・アクシデント報告会
- ・役職者向け面接技法ワークショップ など

## 学会・研修参加支援

法人で、受講料や交通費・宿泊費などの費用を負担し、参加を後押ししています。また、学会発表経験豊富なスタッフがが多いので、学会発表にチャレンジしたい人をいつでもサポートできます。

## 役職者研修

指導する立場の役職者も、労務管理や面談方法、戦略策定など、より良いチームを作るための研修を行っています。新入職の方の頼れる上司となれるよう頑張っています。

# 理学療法士

先輩 南多摩病院  
4年目 佐々木さん

南多摩病院  
2年目 久保田さん 後輩



## 「わからない」が言える環境が成長の第一歩

**久保田** 入職したての頃、最初はパソコン業務が全然わからなくて。カルテの開き方も処方箋の取り込み方も、めっちゃめっちゃできなくて。どうしようって思ったんですけど、先輩が近くに来てくれるので、業務バイザーをはじめ、いろんな先輩に聞きながら、少しずつ慣れていきました。

**佐々木** 久保田さんはコミュニケーション能力がすごい高いし、何か聞けるのも躊躇わないし、わからないことをすぐ「わからない」って言って助けを求めてくれたから、サポートもしやすかったですよ。

**久保田** やった(笑)

**佐々木** バイザーって、一人が一人につくだけじゃなくて、バイザー同士でもこまめにミーティングをしているんですね。「あの人は、ここまで一人でできるけど、ここはまだサポートが必要だよ。逆にこの人はこうで…」っていう感じで、チームで共有しながら対応しているので、バイザーが一人で抱え込まない体制になっていますね。

**久保田** そのおかげだと思うんですけど、先輩方は基本話しかけやすい雰囲気です。そのおかげで、「ここがわからないです」って聞きやすかったなと思います。

## 一人の先輩だけじゃなく全員から学べる

**久保田** 臨床バイザーの制度があって、入職後すぐに先輩方ほぼ全員の臨床を見学させてもらったのが特に助かりました。「自分がどう臨床に臨めばいいか」というイメージがつかめて。その後もフィードバックの時間があったので、吸収する時間がたくさん取れました。一人の先輩だけじゃなく、いろんな先輩に聞きまくってましたよね(笑)。

**佐々木** 確かに、いろんな人の意見を積極的に聞いていた印象がありますね。自分が4年前に入職した時も、一人で患者さんに入る最初の瞬間はやっぱり不安で。でも何かあったら相談できる先輩が決まっているって、コミュニケーションが苦手な人でも「この人だったら話して大丈夫」ってわかるじゃないですか。

**久保田** たしかに

**佐々木** それだけで全然違うと思うんです。自分がバイザーとして後輩に関わる時も、なるべく壁を作らないようにと意識してきましたね。

**久保田** 佐々木さん、全然壁なかったですよ(笑)。私、あんまり残業しない人なんですけど、ちょっと残業してると「お、大丈夫？」って声をかけてくれたり、細かいところまで気にかけてくれて、優しい!

**佐々木** 自分が一年目の頃、なんか残ってやるタイプだったので(笑)。久保田さんに限った話ではないですけど、まあ、みんなあんまりそうなってほしくないなって。

## 答えを渡すより考える力を育てる

**久保田** 一年目の頃は先輩がやっているのを見よう見まねでやる事が多くて。でも二年目になってから、自分でしっかり評価して「ここが問題かな」と考えてアプローチした結果、患者さんに改善が見られた時に「自分の考えがちゃんとプログラムできた」って実感できて、成長したなと思いました。

**佐々木** たしかに、最初は全部自分の考えじゃなくて、先輩に聞いてそれをやるっていうばかりになってたところはあったよね。その時は他のバイザーたちと、じゃあそれをどうやって改善していこうかって話をして。それで、いきなりこっちで答えを出すんじゃなくて、一回「それじゃあ、久保田さんはどう考えてるの?」って一回クッションを挟むようにして、自分で考える機会をつくるように変えたんです。で、これをチーム内でも情報共有して、他の先輩も同じ対応ができるようにしてもらって。

**久保田** そのおかげで、「ここまでわかって、ここからがわからない」という聞き方に、だんだんステップアップできてきた気がします。それが自分でも成長だなと。

**佐々木** この一年二年でぐっと変わったのがすごく伝わってきますよ。自分も後輩に関わることで、アウトプットする機会が増えて、自分自身の理解が深まったり。後輩の成長が、先輩の成長にもつながっているんだなって実感しますね。

**久保田** 成長させてもらいました、本当に(笑)。

## 年次も職種も関係なく協力できる

**佐々木** PTは三チーム制で、年次がばらけるように組まれています。役職の方やチームリーダーを交えてミーティングを行って、複数の目でサポートできる体制にしていますね。

**久保田** 朝のチームミーティングで「今日どう?調子いい?」って自然に声をかけてもらえるので、話しやすくて。いろんな年次の先輩がいるから考え方もそれぞれ違って、自分にない視点をたくさんもらえるんですよ。役職の方にも気軽に聞けますし、職種関係なく話しかけやすい人ばかりで、めっちゃめっちゃいい雰囲気だと思います。

**佐々木** 薬剤師さんや栄養士さんも病棟に配置されているので、多職種との連携もしやすいですよ。わからないことがあればすぐ聞き合える環境なので、新人の頃から他職種との関わりに慣れていけるのはいいですね。

**久保田** 看護師さんも、リハビリテーションの前に声をかけると向こうからも話しかけてくれて。進捗の共有とかも自然にできていましたね。

## 理学療法部門の特長

急性期から生活期まで、あらゆる病期を網羅する広大なフィールドが皆さんの舞台です。若手から経験豊富なベテランまで層が厚く、専門・認定理学療法士などの高度な資格を持つ先輩が数多く在籍しています。クリニカルラダーに基づき、一歩ずつ着実にプロフェッショナルへと成長できるバックアップ体制が整っています。

## 研究・社会への取り組み

臨床の疑問を形にする探究心を大切にしており、学会発表や論文執筆などの学術活動を精力的に行っています。その実績は外部からも高く評価され、講師として招聘されるスタッフも少なくありません。また、行政の委託事業や地域リハビリ支援の運営にも深く関わっており、医療の枠を超えた「街づくり」の視点を養える環境です。

# 作業療法士

先輩 永生病院  
3年目 斉藤さん



永生病院  
1年目 中山さん 後輩

## 「大丈夫？」の一言が不安を溶かしてくれた

**中山** 入職したての頃は、初めて自分の担当患者さんを持つことへの責任感と、自分にちゃんとできるかなという不安が大きかったですね。でも新人には最低一人バイザーがついてくれるので、困った時にすぐ聞けるのは本当に助かりました。バイザーのお二人ともすごく親身で、些細なことでも相談するようにしていましたね、入職してからずっと。

**斉藤** 中山さんのバイザー2人は、以前一緒に働いていたので、どんな方が知っていました。指導は穏やかで優しいんだけど、「もっとこうの方が良くなるよ」って臨床のアドバイスもしっかりしてくれる。あの二人なら心強いですよね。自分も後輩に関わる時は、とつきにくい雰囲気を出さないように気をつけています。自分から聞かないといけない環境ってやっぱり不安じゃないですか。だから「今日はどう？大丈夫？」って、声かけをこちらからするようにしていますね。

**中山** その声かけて、すごく嬉しいですね。溜め込まずにその場でフィードバックをもらえる環境があることが、本当に安心できるなと感じています。

## バイザーにも相談できる先輩がいる

**斉藤** 実はバイザー同士で横のつながりって意外と少なく、でもその代わりに、自分のバイザーだった先輩に「こういう時って後輩にどう対応したらいいですかね」って相談できるんです。どの立場になっても相談先が常にある、っていうのはいいところだなと思っていて。

**中山** それって、すごく安心ですね。しかもうちの病院はOTのスタッフが多いから、「この分野だったらこの人に聞こう」っていうのが自然とできそう。

**斉藤** スペシャリストがいっぱいいますからね。自分もそこにはとても助けられてきました。勉強会も月に一回、班ごとにテーマを決めてやっているの、一年目二年目向けの内容を、先輩がしっかりスライドを作って発表してくれて。あれは自分も勉強になりましたよ。

**中山** 私も二年目になったらスライドを作って発表する立場になるみたいで、まだ声はかかってないんですけど(笑)、楽しみでもあり緊張もしています。

## 独り立ちの瞬間先輩はそっと見守っていた

**中山** 一番成長を感じたのは、自分一人で一日のスケジュールを組み立てて、患者さんに介入できるようになった瞬間ですね。最初は見学から始めて、バイザーの手が少しずつ離れていく感じで。スムーズにできた時に「あ、やれてる」って実感しました。

**斉藤** 最初はドキドキしますよ、送り出す側も(笑)。でもきっと気づかないところでそっと見守ってくれていたと思います。

**中山** やっぱりそうですね。見守っていただいてたんですね。

**斉藤** 独り立ちって「これができたら」って明確に決まっているわけじゃなくて、一人でできたなと思える瞬間が週に一回、二回と増えていく。そのペースを見ながら、という感じですね。

## 患者さんから教わるOTのやりがい

**中山** 印象に残っている患者さんのことを話すと、みんなで作る大きなカレンダー作りをした方がいて。手のしびれや首の痛みがあるなかで、毎月季節の折り紙や飾りを作るんですけど、その役割を失わないようにいろいろ工夫しながら関わっていたんです。その方が役割を継続できた時に、本当にやりがいを感じましたね。

**斉藤** 内科の病棟にいと、もしかしたらこの方は亡くなってしまふかもしれない感じる瞬間があって。心が入れないなって思う時もあるんですよ。でも、だからこそ積極的に関わろうにした患者さんが「この時間は良かった」って言ってくださった時が、本当に関わってよかったなって思える瞬間なんですよ。

**中山** 患者さんへの関わり方で私が大事にしているのは、敬う気持ちを持ち続けることですね。介入期間が長

くなると慣れてきてフランクになりがちなんですけど、患者さんは人生の先輩ですから。その姿勢は常に意識するようにしています。

**斉藤** 内科の患者さんは基本動作まで届かないことも多いので、まず精神的な関わりを中心にするようにしています。認知症の患者さんが何かを抱えていると感じたら、まずはそれを丁寧に聞いて落ち着いてもらってから、次へ。問題をクリアにしてから前に進むっていうのが自分のなかでの軸になっていますね。

## 先輩・後輩で学び合える職場

**斉藤** 後輩たちを見ていると、自分の頃よりずっとよく勉強してきているなって感じます。しっかりした後輩が来てくれると、こっちょしゃっきりしないって(笑)。教える立場になると、後輩からの質問で自分が気づかなかったことを指摘してもらうこともあって、「あ、そうか、確かに」って。助かります、本当に。

**中山** 先輩方が話しかけやすい雰囲気なので、相談がしやすいですね。かといって必要以上に馴れ馴れしいわけでもなく、ほどよい距離感が保たれていて、私にはちょうどいいなって感じています。

**斉藤** そうやって学び合える今の雰囲気、すごくいいと思います。先輩になっても学べることもある、それがこの良さですね。

## 作業療法部門の特長

「対象者から学び、みんなで学ぶ」という文化が根付いています。法人内での症例発表会や学会を通じて、日々の臨床を丁寧に振り返り、仲間と切磋琢磨できるのが魅力です。また、ライフステージに合わせた多様な働き方を尊重しあう風土があり、仕事と生活を両立しながら長く情熱を持って働き続けられる職場です。

## 研究・社会への取り組み

臨床で得た知見を積極的に社会へ発信するため、多くのスタッフが全国規模の舞台で研鑽を積んでいます。社会活動では、職能団体の運営やシーティングのコンサルタント、認知症支援チームなど、専門性を活かした多角的な領域に参画しています。病院内にとどまらず、作業療法の力で社会のニーズに応える広い視野を育むことが可能です。

# 言語聴覚士

先輩 みなみ野病院  
6年目 山本さん



みなみ野病院  
1年目 片桐さん 後輩

## 1年間で感じる成長

**片桐** 入職した頃は、自分の判断に自信が持てないことがよくありました。この訓練をやった方がいいのか、この評価で正しいのか…自分軸で判断することがなかなかできなくて、それがすごく不安でした。

**山本** 不安そうにしているのは感じていましたよ。でも一生懸命やっていたのも伝わっていました。この病院は、STにとって専門性が問われるような患者さんが多かったりして、臨床に入る機会もその分多いから、接する回数に合わせて、スキルがついていったんじゃないかな。前は「もう、ちょっとキャパシティ的に大変です」っていうこともあったけど、それこそ今日とか、「ちょっと急で悪いんだけどお願いしていい？」みたいなのかも対応してくれたり。はじめの頃とは違うな、成長してるなっていうふうには思っています。

## 技術と同じくらい大切なもの

**片桐** 入職してすぐ最初に、山本さんともうお二人の先輩の臨床を見学させていただいて、まずは具体的な臨床の流れを感じたり掴んだりするところから始めましたよね。そのなかで、具体的な根拠を持って臨床に入

ることの大切さを感じられました。

**山本** 自分のなかではこういう風に考えてるっていう臨床はありますね。でも、それを全部一気に教えていくってよりは、一人ひとりの理解度やステップに合わせて、伝えていくようにしています。

情報の出しすぎもよくないし、少なすぎてもいけない。そのさじ加減はすごく気をつけていました。

あと、最初の見学期間は、細かい技術の話をするよりも、接遇の態度や患者さんへの姿勢をしっかり伝えることを意識していましたね。

**片桐** 山本さんから「患者さんが支払っている金額は、高級ホテルの一泊に相当する」という話をさせていただいて、すごく印象に残っています。そこから意識的に接遇や態度を見直すようになりました。

**山本** それは自分が一年目の時に、先輩から教わったことなんです。もちろん金額が全てではないですけど、でもホテルのコンシェルジュが話し方や部屋の整え方に気を配るように、自分たちリハビリスタッフにも同じことが言えるって。技術は時間をかけて身につくものだけど、接遇や姿勢みたいな軸の部分は、なかなか変わらない。だからこそ最初のうちにしっかり伝えなきゃと思っています。

**片桐** 山本さんからはその接遇とか態度とか、そういったとこ結構たくさん学ばせていただいて、いわゆる教科書で習うような、大学で習う時のような臨床とか、そういう以外のところをすごく山本さんから吸収できたかなと思っています。

**山本** 話しながら思い出したんだけど、片桐さんと一緒

について患者さんが、僕が普段気をつけている態度や姿勢を「山本さんは、患者さんや同僚にこういうふうやってるんだよ！」って、僕に代わって片桐くんに指導してくれたことがあったよね。ちょっと恥ずかしかったけど、言語化してもらってより伝わったのかなって。

**片桐** はい、覚えています。患者さんにもよく伝わるんだなっていうところと、やっぱりその多職種で仕事をするっていううえで、そういう態度っていうのが非常に大事なんだなっていうところを、本当に深く学ばせていただいたと思っています。

## 「巻き込まれ力」がキャリアを広げる？

**山本** 元々僕が通っていた学校で、義務的にボランティア活動に参加するっていうのがあって、参加している間に「こんな仕事あるけど」とか「いい経験になるよ」とかみたいな感じで、声をかけてもらうようになったんですね。どんなことをするのかよくわからないまま参加していったら、どんどんいろんなことに巻き込まれていったんです。

**片桐** 山本さんを見ていても、他の先輩方を見ていても、そういうチャンスをものにしていくことの大切さをすごく感じます。

**山本** 最初から全部わかってなくてもいいんですよ。声をかけてもらったら、まずやってみる。自分もそうやって、気づいたら教科書で見ると先生たちがいる場に二年目で座っていて(笑)。最初は何も言えなかったのが、

二、三年経つうちに少しずつ意見を言えるようになって、それが今の法人内での活動にもつながっています。

**片桐** この職場って、そういう巻き込んでいただける機会がとて多いなと思って。今後もチャンスが転がってきたら逃さず拾っていきたいです。

**山本** 「全拾い」するくらいの気持ちでいると、キャリアが広がっていきますよ。

## 先輩から後輩へ受け継がれていくもの

**片桐** もうすぐ自分にも後輩ができるんですね。すごく緊張しているんですけど(笑)、先輩方から学んだことを今度は自分がうまく伝えられるように、目標にもらえるような先輩になれるよう頑張りたいです。

**山本** 永生会って長い歴史のなかで、先輩方が学会発表や地域活動を通じて積み上げてきたものがある。その文化がSTやリハビリ部門にも流れているんだと思います。片桐くんもきっとその流れのなかで育っていくと思うし、自分もそのバトンをちゃんとつないでいきたいなと思っています。

**片桐** 自己成長につながる環境が本当にここにはあると感じています。これからも先輩方に追いつけるように頑張ります。

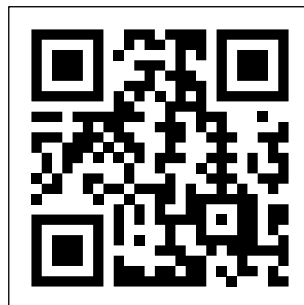
## 言語聴覚部門の特長

地域屈指のスタッフが在籍規模を誇り、多種多様なスタッフが集まっています。摂食嚥下や高次脳機能障害の分野など、認定資格を持つスペシャリストが多数在籍し、専門性の高い介入を実践しています。充実したバイザー制度や、外部講師を招いた勉強会等が開催されており、技術を効率的に吸収できます。

## 研究・社会への取り組み

研究支援体制のもと、学会発表や著書の執筆など、学術の発展に寄与する活動を継続的に展開しています。社会活動においても、職能団体の要職を務めるスタッフを筆頭に、地域リハビリや行政との連携など、積極的に参画しています。知識を社会へ還元できるフィールドが広がっています。

募集要項やエントリーなど  
くわしくはリクルートサイトを  
ご覧ください



永生会リクルートサイト



永生会グループについて

詳しくはこちら



リハビリテーション部の  
日々の活動が見られる  
永生会ブログ

医療法人社団 永生会

